

令和4年11月17日

まちづくり委員会資料

公園等における持続的な協働の取組
について

建設緑政局

公園等における持続的な協働の取組について

—「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」の実現—

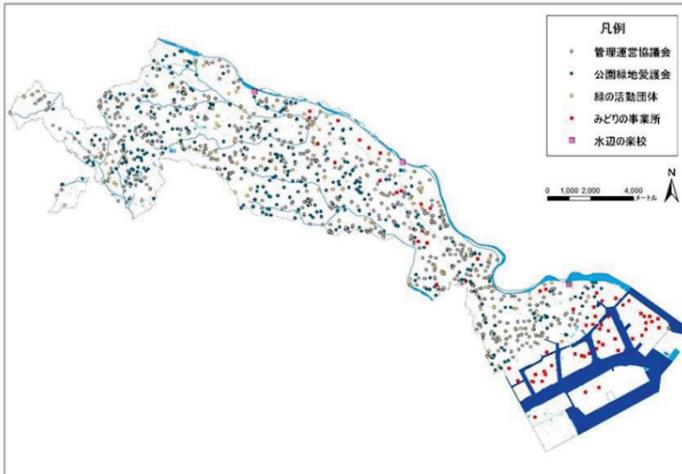


1 背景

(1) 財産「これまでの本市の協働の取組」

本市においては、「川崎市緑の基本計画」(平成30年3月策定)に基づき市民、民間企業及び教育機関等の多様なステークホルダーとの協働の取組を推進してきたことにより、樹林地等の保全管理、緑化及び公園等の管理運営に関する活動が全市的に広がってきました。

主な活動団体の分布状況



▼緑の基本計画策定時

名称	平成28(2016)年度	令和3(2021)年度末	比較
管理運営協議会	541公園	575公園	+34公園
公園緑地愛護会	340公園	350公園	+10公園
街路樹愛護会	1186ブロック	1105ブロック	-81ブロック
緑の活動団体	254団体	267団体	13団体
水辺の学校	3地区	3地区	-
川崎市みどりの事業所の推進に関する協定	67事業所	62事業所	-5事業所



公園の維持管理活動



生田緑地ばら苑の維持管理活動



雑木林の保全活動

しかしながら、活動団体の高齢化や世代交代の停滞の問題が生じているところもあり、活動の持続性が危ぶまれています。

本市の貴重な財産である市民と築いてきた「協働の取組」を次の世代へと引き継ぎ、更に発展させていくため、**活動の支援を継続することに加え、協働の取組の持続性を確保することが喫緊の課題**です。

(2) 新たな動き「公園等において市民の暮らしを支え、高めるなどの取組」

全国的にも公園等の多機能性や多様な可能性が再認識される中、本市でも新たな動きが出ています。今後は、本市が築いてきた協働を更に発展させ、多様な主体とともに公園等を活用する取組を強化することで、緑を介した顔の見える関係や地域の魅力・価値の向上等につなげていくことが重要となっており、公園等のみどりが市民の暮らしを支え、高めていく地域コミュニティの場やまちづくりの核として、**多種多様な効用を更に高めていく必要があります**。



地域コミュニティの形成
(宮前区宮崎おちば公園)



イベントに合わせた自主防災組織の活動
(麻生区王禅寺ふるさと公園)

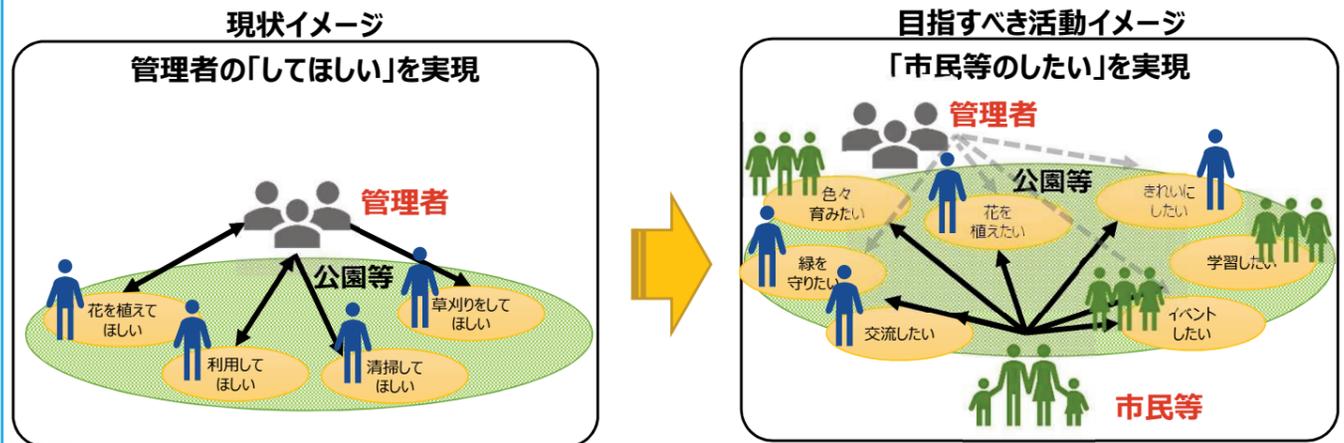


まちづくりと連携した活用
(中原区こすぎコアパーク)

2 「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」

(1) 「公園管理者」×「市民」によりみんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園へ

これまでの協働の取組の多くについては、管理者主体で取組を進めてきましたが、**持続的な管理運営を目指すためには、より多くの市民に係わっていただき、新たな担い手を増やす取組が必要**になっているため、「市民等のしたい」が実現しやすく、「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」を目指します。



(2) 「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」の実現イメージ

公園等における活動については、**多様な主体との連携や活動支援の拡充、行政による基盤づくりとして活動支援、制度・ルールの見直し等を進めるとともに、新たな担い手等が公園における活動に参加しやすくなるよう、「プログラム」による参加を位置づけ、既存の「協働の取組」を含め、新たな好循環を創出**します。



3 「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」に向けた具体的な取組

(1) 多様な主体との連携

既存の関係団体等への情報提供を行った上で、**新たな担い手を含めたワークショップ(各区1カ所)**を開催し、**地域特性を活かした取組となるよう**進めてまいります。

ワークショップの開催概要

- 開催数：7グループ(各区1カ所)
- スケジュール：R4年度 1グループ、R5年度 3グループ、R6年度 3グループ
- 募集人数：30名程度/1グループ
- 参加者：町内会、既存の公園に係る団体、地域コミュニティ関係団体、NPO、子育て、公園を活用してみたい団体・企業・教育機関、川崎市公園緑地協会等
- テーマ：「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」に向けたプログラムづくり
- 検証内容：公園の規模・立地・施設、既存及び連携する団体、参加者の年齢・人数・目的、必要な支援、手続き等

みんなが活躍する公園に向けて、**ワークショップ参加者が作成したプログラムを実証実験として実施します。**

参加する・学べる・楽しめる・愛着を育むための「プログラム」を策定

新たな担い手も含め市民等が、気軽に公園の活動に参加できるように、花植え、緑を育てる、スポーツ、マルシェ、プレイパーク、体操、ごみ拾い、除草、芝刈り、樹木伐採、自然観察、環境学習、地域コミュニティ、防災等の様々なプログラムの策定を目指します。



花植えプログラム



マルシェプログラム



緑を育てるプログラム



プレイパークプログラム

(2) 行政による基盤づくり

【既存の活動の支援】

管理運営協議会や愛護会へのアンケート調査の結果を踏まえ、支援内容等の見直し(機材の貸出、報奨金等)や活動計画や報告に係る手続きの簡素化等、既存の活動に係る情報発信等について、民間事業者のノウハウ等の活用(全国都市緑化かわさきフェア共創プロジェクトとの連携)も含め検討してまいります。

【制度やルールの見直し】

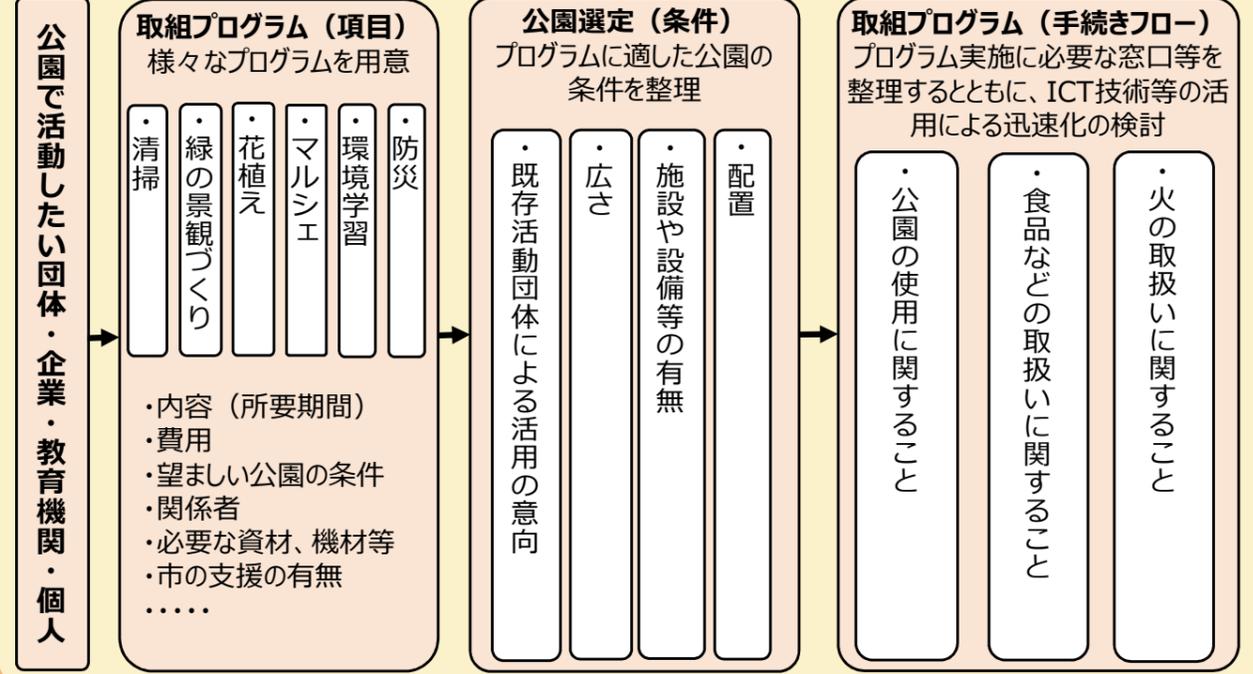
公園における新たな活動(地域コミュニティの形成、防災に係る取組、まちづくりとの連携)やワークショップにより作成したプログラムを踏まえ、活動の活性化に向けた制度やルールの見直しについても検討を進めてまいります。

行政による基盤づくり

多様な主体との連携で「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」が増加

(3) 多様な主体が運用しやすいプログラムづくり

公園で活動したい団体・企業・教育機関・個人が、気軽に公園における活動の主体となれるプログラムを用意し、全国都市緑化かわさきフェアに係るボランティア活動とも連携し、多様な主体による公園活動を推進してまいります。



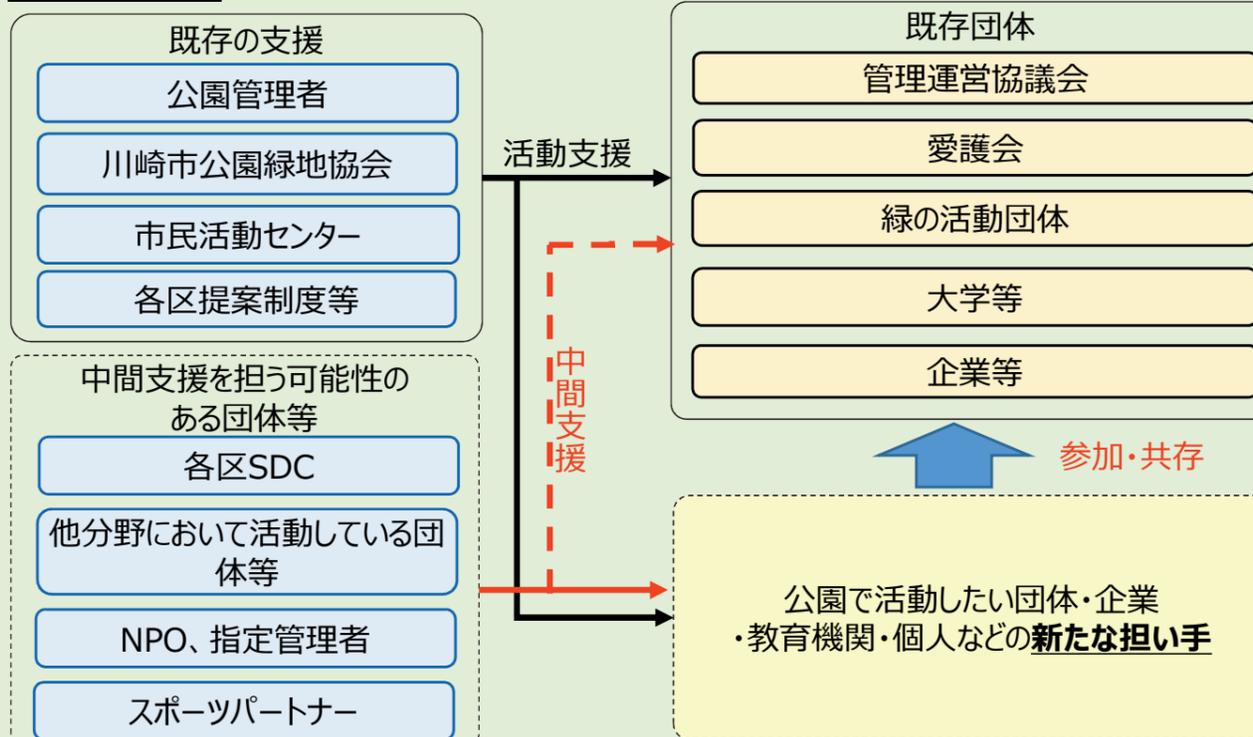
担い手確保へ

プログラムを通じ、多くの市民が公園で活動

持続性の確保

(4) 活動支援の拡充

これまで、公園における協働等を支えてきた公園管理者、川崎市公園緑地協会等による支援に加え、**中間支援(活動の担い手の発掘、連携、支援、調整等)を担う可能性のある団体を発掘・育成し、活動支援を拡充します。**



多様な主体が公園等における活動を支援

公園等における活動に係る担い手を確保・支援し、既存制度を含め、「協働の取組」の新たな好循環を創出

公園等における持続的な協働の取組について

—「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」の実現—



4 スケジュール

本市の財産である「協働の取組」については、**既存制度を含め、「協働の取組」の新たな好循環を創出し、今後100年を支える仕組みとして発展させてまいります。**また、市民総参加型のフェアの取組の一部として、「**みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園**」の実現について、**全国都市緑化かわさきフェア**において発信してまいります。

